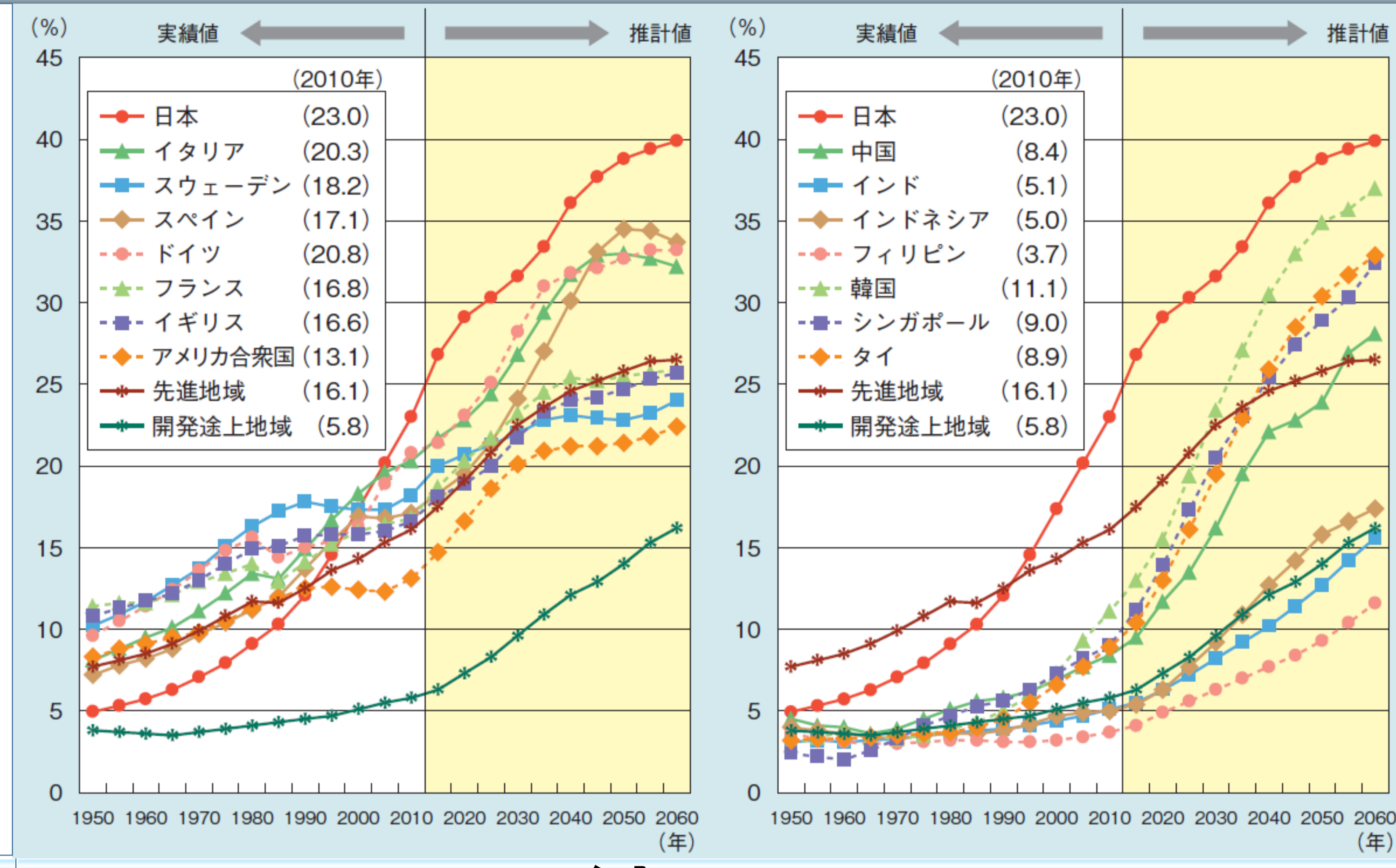


高齢がん患者の診療 に関する教材開発

杏林大学医学部 総合医療学/腫瘍内科学
水谷 友紀

背景

- 人口の高齢化に伴い、がんを併発している高齢者（以下、高齢がん患者）の割合は増加しているものの、高齢がん患者に対する治療の意思決定に寄与するエビデンスは非常に乏しい
- このため、医師の「経験と主観」で高齢がん患者の診療を行わざるを得ない状態であった
- しかし、2000年代に入ってから、欧米を中心として、高齢がん患者に特化したガイドラインが作成されるようになった
- 今回、各国の高齢がん患者ガイドラインを参考にして、日本における高齢がん患者の診療に関する教材を開発した



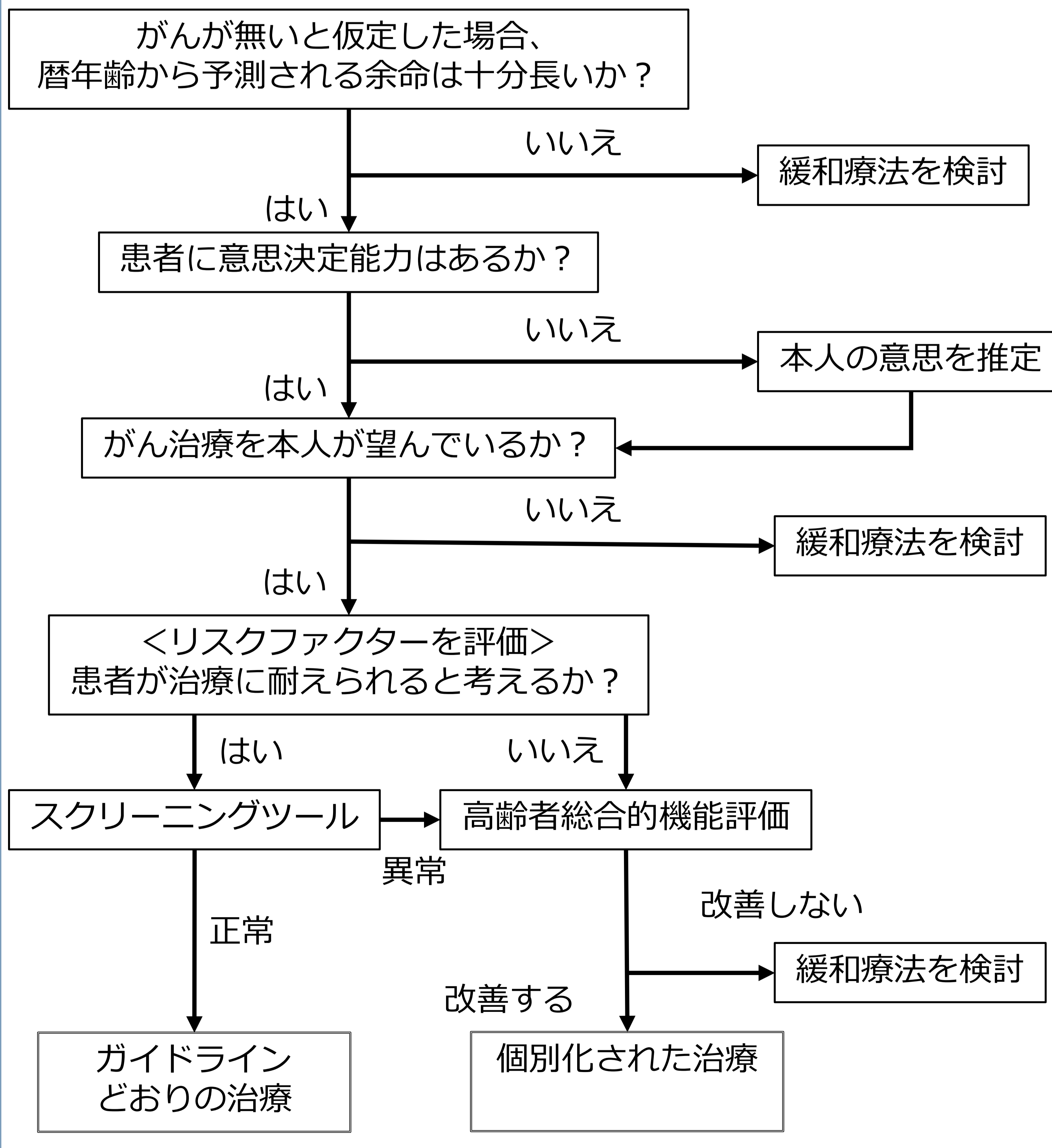
方法

- 研究代表者が各種ガイドラインを精読し、教育資料として残すべきと考える内容を吟味する
 - 研究代表者が選択した内容が適切か否かを、研究分担者*が評価する
 - 研究代表者が教育資料案を作成する
 - 研究代表者が作成した資料案が妥当であるか否かを、研究分担者*が評価する
 - 資料案が妥当であると判断された場合、同資料を用いて医療関係者向けの講演をする
 - 講演での質疑応答により、教育資料を修正し、完成版を作成する
- (*研究分担者: 医学部腫瘍内科学教授 長島 文夫)

結果-1

- 以下のガイドラインが収集・評価された
- National Comprehensive Cancer Network (NCCN)¹
- 欧州臨床腫瘍学会 (European Society for Medical Oncology: ESMO)²
- 世界老年腫瘍学会 (International Society of Geriatric Oncology: SIOG)³
- 日本臨床腫瘍学会 (Japanese Society of Medical Oncology: JSMO)⁴

結果-2



まとめ

- 今後、このフローチャートをアップデートしてゆくことにより、高齢がん患者の日常診療するにあたり、さらに有用な教材になることを期待している

参考文献

- NCCN GUIDELINES FOR SPECIFIC POPULATIONS: Older Adult Oncology.
- ESMO HANDBOOK OF CANCER IN THE SENIOR PATIENT.
- SIOG Guidelines.
- 日本臨床腫瘍学会/日本癌治療学会. 高齢者のがん薬物療法ガイドライン.